

《報道資料》

パテック フィリップ ジュネーブ

2009年11月

パテック フィリップ、クロノグラフ技術の粋をきわめた創作ムーブメントを発表

パテック フィリップは11月、クロノグラフ技術の粋をきわめ、同社の独立性と技術革新の精神を体現した、完全自社開発・製造の創作ムーブメントを新たに発表する。伝統的なコラムホイール制御の、この新しい手巻クロノグラフ・ムーブメント、キャリバーCH 29-535 PSは、マニュファクチュール・パテック フィリップのルーツを誇らしく示すと共に、クロノグラフの機能性と視認性をさらに高める、いくつかの重要な技術革新を含んでいる。本物を愛する女性へのオマージュとして、この新しいクロノグラフ・ムーブメントは、女性のために創作された初のクロノグラフ、エレガントな《レディス・ファースト・クロノグラフ》に先陣を切って搭載される。パテック フィリップの女性との長い関わりにおける新たな歴史の一章を飾ると共に、機械式クロノグラフのすべての愛好家にとっても、新しい時代を告げるモデルとなることは疑いを容れない。パテック フィリップのキャリバーCH 29-535 PSと《レディス・ファースト・クロノグラフ》7071Rモデルは、11月初旬パリで、数か月におよぶ改装工事により新装された、パテック フィリップ・パリ・サロン（ヴァンドーム広場）のオープニング・イベントに合わせて公式発表される。

クロノグラフは、コンプリケーテッド・ウォッチにおけるパテック フィリップの広大なレパートリーの中で、とりわけ重要な位置を占めてきた。数多くの自社所有特許に代表される技術革新と、洗練された控え目な美しさにより、パテック フィリップは今日、クロノグラフというきわめて技術的なタイムピースのカテゴリーにおいても、世界で最も尊敬されるマニュファクチュールのひとつとなっている。1820年代に発明されたクロノグラフは、今日という時代を最もよく象徴するアイテムといえることができる。

クロノグラフの巨匠、パテック フィリップ

パテック フィリップは十九世紀後半、すでにクロノグラフおよびスプリット秒針クロノグラフ搭載の懐中時計を製作していた。短時間の事象を測定するクロノグラフ機能は、多くの場合、永久カレンダー、ミニット・リピーターなど他の高度なコンプリケーション機能と共に組込まれていた。1878年、パリ万国博覧会に出品された2つのタイムピースがその好例であり、パテック フィリップはこの2つのタイムピースにより金賞を獲得している。1893年、パテック フィリップは分積算計分離機構の特許を取得している。続いて1902年には、継続する複数の事象の長さを次々に記録することのできる《ダブルクロノグラフ》（今日、スプリット秒針クロノグラフと呼ばれる）の特許を取得した。そして1904年には、分積算計へ瞬時に動力を伝達する機構を開発し、特許を取得している。

1920年代、腕時計の興隆にともない、パテック フィリップはクロノグラフの小型化において主導的役割を演じることになる。1923年には、特別注文により世界初のスプリット秒針クロノグラフ搭載腕時計を創作した。1927年以降は、クロノグラフおよびスプリット秒針クロノグラフ搭載腕時計をレギュラー生産するようになった。これらのモデルの多くは、ラウンド型、スクエア型、レクタングラー型、トノー型、クッション型と多岐にわたるアール・デコ様式のケースに収められたものであった。クロノグラフ・ムーブメントは、最高のクラフトマンたちにより特別製作されたエボーシュ（素材ムーブメント）を使用し、技術的にも、デザイン的にも完璧さをきわめたものであった。

1930年代は、パテック フィリップにとり腕時計クロノグラフの黄金時代といってよい。シンプル・クロノグラフは、1934年に創作された著名な130モデルを含み7種類のモデルを数えた。一方スプリット秒針クロノグラフは3種類のモデルを擁していた。これらの第二次世界大戦前のパテック フィリップ・クロノグラフは、愛好家、コレクターから熱狂的に追い求められ、今日、国際オークションで常に最高の落札価格を記録している。

1940～1950年代を通じ、パテック フィリップのクロノグラフ・モデルはさらなる発展を続けた。永久カレンダーなどのコンプリケーション機能を追加されることも多く、1463モデルには防水ケースが採用された。

1986年、パテック フィリップは伝説的な手巻クロノグラフ・ムーブメント、キャリバーCH 27-70を発表してこの分野に新たな時代を開いた。キャリバーCH 27-70は、《ヌーヴェル・レマニア》がパテック フィリップのみのために製作するエポーシュ（素材ムーブメント）を用い、パテック フィリップ工房において完璧に組立て、仕上げ、調整が行なわれた。1996年には、スプリット秒針クロノグラフにおいて、スプリット秒針停止時の計時精度低下を完全に防ぐ分離機構に関する特許を取得している。

2005年、パテック フィリップは、コラムホイール搭載の世界で最も薄いスプリットセコンド・クロノグラフ・ムーブメントを創作し、世界の注目を集めた。年生産個数がわずか数個のキャリバーCH R 27-525 PSであり、これはパテック フィリップ完全自社開発・製造による初のクロノグラフ・ムーブメントである。

さらに翌年には、愛好家、コレクターが長年待ち望んでいた、パテック フィリップ完全自社開発・製造の自動巻クロノグラフ・ムーブメントが実現した。年次カレンダー搭載のキャリバーCH 28-520 IRM QA 24Hである。

記念すべき年

キャリバーCH 29-535 PSの完成は、パテック フィリップにおける5年以上におよぶ開発の賜物であり、パテック フィリップ完全自社開発・製造による新しい手巻クロノグラフ・ムーブメントという意味で、重要なマイルストーンでもある。愛好家、コレクターから世界で最も美しい機械式クロノグラフ・ムーブメントとして定評のあるキャリバーCH 27-70に比肩し、多くの点でこれを凌駕する、比類のないメカニズムの創作を目指し、パテック フィリップは技術陣の総力を傾注した。そして努力は報われたのである。キャリバーCH 29-535 PSは、高度な技術性と伝統的な精緻な仕上がりによって、パテック フィリップの妥協を許さぬ品質哲学を完璧に体現する、キャリバーCH 27-70の正統的な後継者となるに違いない。

キャリバーCH 29-535 PSはまた、クロノグラフ機構のみの、または他のコンプリケーション機能を追加した、次世代の腕時計クロノグラフを開発して行く新たな道を開いた。キャリバーCH 29-535 PSは、伝統的手巻クロノグラフ・ムーブメントとして、現行キャリバーCH 27-70を漸次置き換えて行く。ニュー・キャリバーの追加により、パテック フィリップの現行基本キャリバーは21種類、これらから発展したものを加えると45種類を数えることになる。

伝統的なムーブメント・アーキテクチャー

キャリバーCH 29-535 PSのクロノグラフ機構は、機械式クロノグラフの最も完成された、プレステージの高い制御形式であるコラムホイールを採用している。コラムホイールはパテック フィリップに特徴的なポリッシュ仕上げのシャポー（カバー）により覆われている。このモデルは大型のクロノグラフ秒針、スモールセコンド、瞬時運針式30分計を備えている。4本のアームと4個のマスロットを持つ大口径のジャイロマックス・テンプが4 Hz（毎時28,800片道振動）で振動する。連続駆動可能時間は65時間（クロノグラフ作動中は58時間）である。クラッチレバーはクラシックなS字形をなしている。エクスクルーシブなデザインは、クロノグラフ車受け（ブリッジ）と分車受けの特徴あるフォルムにも及んでいる。時計にはストップ・セコンド（秒針停止）機構が搭載されており、時報に合わせた正確な秒合わせが可能となっている。

パテック フィリップ・シール認定規準に完全準拠

新しいキャリバーCH 29-535 PSは、パテック フィリップ・シール認定規準に完全準拠していることはいままでのない。パテック フィリップ技術陣は、開発段階から、操作の容易さ、機能性、長期にわたる完璧な視認性に高い優先度を与えてきた。受けの洗練された特徴あるフォルムも、香箱（主ぜんまい）からガンギ車にいたる時回り輪列における摩擦を最小化し、これによりエネルギー効率を最大化してテンプの振り角と計時精度の向上を計ることを目的として得られたものである。複雑な機能を最小のスペースに収めるために、パテック フィリップ技術陣はどんな努力も厭わなかった。その成果が、わずか5.35 mmの厚さと、29.6 mmのムーブメント直径として結実している。開発の各段階ですべての構成部品はパテック フィリップ・シール監督委員会の検査を受け、マニュファクチュール・パテック フィリップの他に例を見ない厳格な技術的、美的規準を完璧にクリアしていることが認められて初めて、次の段階に進むことができた。

輝かしい技術革新の伝統

キャリバーCH 29-535 PSはコラムホイールとクラッチによる伝統的な機構をベースとしているが、ここには6つの技術特許により保護された技術革新が含まれている。その各々がパテック フィリップの創造的、革新的な精神を体現しているのである。パテック フィリップのムーブメント開発部門では、これまでのすべての機械式クロノグラフに採用されているシステムをすべて検証した上、計時精度、信頼性、耐久性、機能性、操作性を改善する新しい解決法を追求した。中でも機能性と操作性には、高級時計製作の伝統とパテック フィリップ・シール認定規準に照らして格別の重要性が与えられた。

キャリバーCH 29-535 PSの6つの技術特許

キャリバーCH 29-535 PSの開発の頂点が、クロノグラフ製作の最新の到達点を示す、6つの技術特許に集約されている。

1) 新しい歯型曲線

キャリバーCH 29-535 PSのクロノグラフ輪列には、2005年に超薄型スプリット秒針クロノグラフ・ムーブメント、キャリバーCH R 27-525 PSにおいて初めて採用された、新しい歯型曲線が受け継がれている。これ

は、歯と歯のあがきを最小化することにより、クロノグラフ秒針の動きをなめらかにし、計測スタート時のクロノグラフ秒針のジャンプや後退を防ぎ、エネルギー効率を向上させ、摩擦を減少させ、歯の摩耗を防ぐことができる。

2) クロノグラフ中間車とクロノグラフ車の噛み合い調整の最適化

クロノグラフ中間車とクロノグラフ車の噛み合い調整は、コラムホイール上部に設けられた大型の偏心シャポー（カバー）が、クラッチレバー先端に直接働くことにより行なわれる（従来の機構では、クロノグラフ中間車に隣接する偏心軸がこれを行なっていた）。この新しいシステムにより、クロノグラフ中間車とクロノグラフ車の噛み合い調整をより精密に行なうことができる。

3) クラッチレバーとブロッキングレバーの同期の向上

従来の機構では、クラッチレバーとブロッキングレバーの同期は、コラムホイールを介して間接的に行なわれていた。パテック フィリップ技術陣は、クラッチレバーに取り付けられたフィンガーにより、直接クラッチレバーとブロッキングレバーの同期を行う方式を開発した。同期には従来2個所の精密調整が必要であったのに対し、この方式によれば、1個所の調整で済むことになり、作業の効率化と精度の向上が得られる。また計測スタート時、ストップ時のクロノグラフ秒針のジャンプを防止するという副次的効果が得られる。

4) 分積算計カムの弧状切り欠き部

キャリバーCH 29-535 PSの分積算計カムには弧状の切り欠き部が設けられており、ゼロ復帰（リセット）時におけるショックを減少させ、クロノグラフ秒針の振れを軽減させている。

5) 復針レバーの各ハンマーの自動位置決め

復針レバーの2つのハンマー（クロノグラフ秒、分）には自動位置決めシステムが備えられている。これにより分ハンマーの個別切削調整が不要となり、メカニズムの信頼性が向上している。

6) 独立して動く2つのハンマー、軸受けにはルビー（穴石）を使用

2つのハンマー（クロノグラフ秒、分）は独立しており、それぞれが同一の軸上を自由に動くことができる。軸受けには両側にルビー（穴石）が使用されている。ゼロ復帰（リセット）時、各ハンマーは、それぞれ別のスプリングにより、各ハートカムに圧着される。このシステムによれば、各ハンマーの垂直方向の精密な位置調整が可能となり、ハンマーの動きもよりスムーズとなる。

パフォーマンスを向上させる数々の技術的特徴

キャリバーCH 29-535 PSには、特許取得の上記の6つの点以外にも、パフォーマンスを向上させる数々の技術的特徴を持っている。そのひとつの例は、瞬時運針式30分計である。この巧みなシステムは、製作が困難であるが、30分計の指針を従来のように遅れてステップ運針させたり、または常時回転させるのではなく、瞬時にステップ運針させるものである。これにより視認性が向上し、より正確な読取りが可能となった。もうひとつの例は、クロノグラフ車を動かすクロノグラフ駆動車である。キャリバーCH 29-535 PSのクロノグラフ

駆動車は、時計の輪列に統合されているため、クロノグラフ組立て時に取付ける必要がない。これもクロノグラフの信頼性向上に寄与している。

比類のない計時精度

新しいキャリバーCH 29-535 PSには、パテック フィリップの創業以来の技術・ノウハウと、最新の特許技術が融合されている。これらの革新的な技術により、クラフトマンは、手作業によらなければならない高度な調整に専念し、さらに高い計時精度を実現するためにより多くの時間を使うことができるのである。これはユーザーの要望に応えるためであると同時に、厳格なパテック フィリップ・シール認定規準に準拠するためにも必要であった。

パテック フィリップ・シール認定規準より抜粋

パテック フィリップ・タイムピースの計時精度は製造工程のいくつかの段階で、ムーブメントのみの状態、およびケーシング後の状態で検査される。計時精度の最終検査は、着用状態をシミュレーションして行ない、以下のパテック フィリップ計時精度規準を満たしていなければならない。

- ムーブメント径が20mm以上のものは、日差-3〜+2秒でなければならない。

究極の美的チャレンジ

キャリバーCH 29-535 PSは、パテック フィリップの遺産を継承する、技術的、美的完成の新たな模範といえることができる。その際立った特徴のひとつとして、念入りに面取り、ポリッシュ仕上げ、コート・ド・ジュネーブ装飾を施したエレガントなフォルムの構成部品と受け（ブリッジ）を挙げないわけにはいかない。どんな小さな表面も、無数の工程を経て、最後は手作業で精緻に仕上げられる。もちろん、パテック フィリップ・シール認定規準に従い、構成部品の仕上げ、装飾は、ムーブメントの機能を些かも損なうものであってはならないのである。

女性のために創作された初のクロノグラフ《レディス・ファースト・クロノグラフ》7071R モデル

近年、ますます多くの女性たちがコンプリケーテッド・ウォッチ、とりわけ高級時計製作の頂点であるパテック フィリップ・タイムピースを好むようになってきている。中でもクロノグラフの機能性と魅力的な美しさに惹かれる女性たちが多い。パテック フィリップが新たに創作したクロノグラフ・ムーブメントを、婦人用モデルに搭載することを決定したのはこのためである。《レディス・ファースト・クロノグラフ》7071R モデルは、エレガントで高度な技術性に溢れた、女性のためのコンプリケーテッド・ウォッチ・コレクションに新たな奥行きを与えることだろう。

歴史に残るスタイル

《レディス・ファースト・クロノグラフ》7071R モデルは、1930年代以降、パテック フィリップが創作してきたアール・デコ様式のタイムピースからインスピレーションを得た、エレガントな丸みを帯びたクッション型のタイムピースである。このきわめてデリケートなフォルムのケースは、最高のクラフトマンにしてはじめて製作が可能である。コンテンポラリーなデザインが18金ローズゴールドのケース素材とよくマッチしてい

る（18金ローズゴールド仕様のみ）。長方形のクロノグラフ・プッシュボタンと刻み入りのリュウズは、アーガノミックス（人間工学）に準拠した快適な操作を約束する。

文字盤はシルバー・オパール、またはブラック（中央にギョシェ装飾）をラインナップしている。スモールセコンドおよび30分計サブダイヤルが、文字盤中央よりやや下方に配置されている。この動きのある文字盤レイアウトは、スモールセコンドと30分計サブダイヤルの非対称なスケールによりさらに強調されている。文字盤には縦長のアワー・インデックスとシュマン・ド・フェール（レール）型分スケールを配置し、時・分針はローズゴールド夜光付リーフ型、クロノグラフ秒針はアロー型、サブダイヤル指針は細いバトン型である。視認性はきわめて高い。

7071Rモデルは、搭載されたムーブメントに優るとも劣らないエクスクルーシブなフルカット・ダイヤモンドが、文字盤フランジに136個セッティングされている。わずかにふくらみを帯びたサファイヤクリスタル・ガラスの下に、熟練したジュエリー・セッターの手により念入りにセットされたダイヤモンドは、貴女の手首を比類のない輝きで満たし、テクニカルなクロノグラフに優しい女性らしさを加えることだろう。

ハンドステッチのアリゲーター・バンドとケースは可動ラグにより連結され、どのようなサイズの手首にもぴったりとフィットさせることができる。

すべての外装（ケース、文字盤、バンド、ダイヤモンド）は、タイムピース全体のクォリティを保証するユニークな品質ラベルである、パテック フィリップ・シール認定規準に厳密に準拠してデザインされ、加工され、仕上げられている。

新しいパテック フィリップのキャリバーCH 29-535 PSのエレガントなフォルム、精緻な仕上がり、269個の構成部品が織りなす視覚の交響楽を、サファイヤクリスタル・バックを通して鑑賞することができる。このタイムピースは、《レディファースト》のマナーに従い、まず婦人用モデルのみが発表される。

新装なったパテック フィリップ・パリ・サロン

究極のクロノグラフ・ムーブメント、キャリバーCH 29-535 PSと《レディス・ファースト・クロノグラフ》7071Rモデルは、新装なったパテック フィリップ・パリ・サロンのオープニング・イベントに合わせて公式発表される。1995年に開店したパテック フィリップ・パリ・サロンは、世界で最も豪華な広場のひとつ、パリ・ヴァンドーム広場10番地にある。数か月におよぶ改装工事により、ショールームはスペースを増して内装が一新され、より豪華で、より快適で、より温かな雰囲気を提供する。パテック フィリップ・パリ・サロンは、ロンドン、ニューヨークのそれと同じアール・デコ様式の内装を持ち、2層の来客用フロアは、改装前に比ベスペースがほぼ2倍となった。ジュネーブに源を発するパテック フィリップの伝統と革新の精神は、このパリ・サロンにも脈々と受け継がれている。ヴァンドーム広場のパテック フィリップ・パリ・サロンは、世界中から集まる高級タイムピース愛好家、コレクターのエクスクルーシブなオアシスであると同時に、パテック フィリップの創作タイムピースを愛する、ますます増大するパリおよびフランス全土のファンたちの交流の場でもあるのだ。

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

丸山和泉

電 話：03-5209-8018 (直通)

F A X：03-3256-7558

maruyama@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

パテック フィリップ ホームページ：<http://www.patek.com> (英語)

技術仕様

7071R モデル (ローズゴールド)

ムーブメント：	キャリバーCH 29-535 PS クロノグラフ秒針、スモールセコンド、30分計付 手巻コラムホイール式クロノグラフ・ムーブメント
寸法：	29.60 mm
総厚：	5.35 mm
部品総数：	269個
石数：	33石
連続駆動可能時間：	65時間
テンプ：	ジャイロマックス・テンプ (4アーム、4マスロット)
振動数：	28,800 振動 (片道) /時 (4 Hz)
髭ぜんまい：	ブレゲ式
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置：ゼンマイの巻き上げ ・引き出した位置：時刻合わせ、ストップ・セコンド
表示：	時針・分針 (センター) クロノグラフ秒針 (センター) 30分計 (3～4時位置) スモールセコンド (8～9時位置)
プッシュボタン：	・クロノグラフのスタート、ストップ (2時位置) ・クロノグラフのゼロ復帰 (リセット) (4時位置)
刻印：	パテック フィリップ・シール
外装	
ケース：	18金ローズゴールド仕様、サファイヤクリスタル・ガラス サファイヤクリスタル・バック (4本のポリッシュ仕上げネジ固定)
防水性能：	3気圧
寸法：	35 mm (9時 - 3時方向) 39 mm (12時 - 6時方向)

厚 さ： 10.95 mm

ラグ幅： 18.2 mm

文字盤： ホワイト・シルバー・オパール、
または《フラム》ギヨシェ装飾入ブラック・オパール
シュマン・ド・フェール（レール）型分スケール

ホワイト・シルバー・オパール文字盤
8個のブラウン・アワー・インデックス
18金ローズゴールド夜光付リーフ型時・分針
ブラウン・カウンターウェイト付アロー型クロノグラフ秒針
細かい同心円模様入ホワイト・オフセンター・サブダイヤル：
・ 18金ローズゴールド・ブラウン・カウンターウェイト付バトン型秒針
・ 18金ローズゴールド・ブラウン・カウンターウェイト付30分計指針

《フラム》ギヨシェ装飾入ブラック・オパール文字盤
8個の18金ローズゴールド・バトン型植字アワー・インデックス
18金ローズゴールド夜光付リーフ型時・分針
ホワイト・カウンターウェイト付アロー型クロノグラフ秒針
細かい同心円模様入ブラック・オフセンター・サブダイヤル：
・ 18金ローズゴールド・カウンターウェイト付バトン型秒針
・ 18金ローズゴールド・カウンターウェイト付30分計指針

ダイヤモンド： 文字盤円周に136個のラウンドカット・ダイヤモンド（合計約0.58カラット）

バンド： ハンドステッチのアリゲーター・バンド、カラーはマット・ホワイト（ブラック
文字盤）、ブラウンにホワイト・ステッチ（ホワイト文字盤）
18金ローズゴールド幅18 mmスタンダード・バックル